

明石市地域福祉計画、明石市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定に関わる

担い手アンケート調査 報告書

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査対象者、調査方法	1
3 調査の期間	1
4 回収状況	1
5 調査内容	2
6 集計・分析方法	2

II 調査結果のまとめ

1 調査結果の全体像	3
2 調査結果のまとめ	
(1) 回答者について	4
(2) 地域福祉活動について	6
(3) 地域福祉活動の問題点	15
(4) これからの地域福祉活動について	20
自由意見	29

I 調査の概要

1 調査目的

- 「明石市第2次地域福祉計画」及び「明石市社協地域福祉活動計画」は最終年を迎えたことから、本市及び市社会福祉協議会（市社協）ではこれまでの到達点を振り返るとともに、新たな計画づくりに取り組んでいます。
- 地域福祉活動の現場では、「担い手の高齢化や人材不足」が課題となっており、活動実態やニーズに基づく支援策が求められています。そこで、地域福祉活動の担い手の方約2,400名に対して、活動実態を把握するとともに、そのニーズを計画に反映することを目的として調査を実施しました。

2 調査対象者、調査方法

- 地区社会福祉協議会（地区社協）役員、ボランティア、民生委員児童委員、自治会・町内会等の、地域福祉活動の担い手約2,400名を対象としています。
- 明石市及び市社協から代表者に郵送し、団体を通じて配布。回収は郵送回収。

	対象	配布票数
1	地区社協役員	420
2	ボランティア	500
3	民生委員児童委員	400
4	自治会・町内会	940
5	PTA	140
	合計	2,400

3 調査の期間

- 平成27年7月

4 回収状況

- 配布 2,400 票 回収 1,436 票 回収率 60%

5 調査内容

○以下の調査項目について、実態や意向等を質問しました。

<p>調査項目</p> <p>1 あなたご自身のことについて</p> <p>(1) 性別 (2) 年齢 (3) 居住地 (4) 居住年数</p> <p>2 地域福祉活動について</p> <p>(1) 主な所属団体 (2) 活動分野 (3) 活動年数 (4) 活動のきっかけ (5) 現在の活動について (6) 活動を通じてよかったこと</p> <p>3 地域福祉活動の問題点</p> <p>(1) 活動の対象者 (2) 対象者や近所の方が困っていることや不安に感じていること (3) 活動のなかで困っていること</p> <p>4 これからの地域福祉活動について</p> <p>(1) 担い手を増やす工夫 (2) 困ったときの相談相手 (3) 連携が必要な団体や機関 (4) 活動を進めていく上で必要な条件 (5) 明石市や市社協に期待すること (6) その他地域福祉活動に関しての意見</p>

6 集計・分析方法

○集計・分析にあたっては、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、回答比率を合計しても100%にならず、1%の範囲で増減することがあります。

○N：回答者件数。集計表の上段は回答者件数、下段は構成比%

II 調査結果のまとめ

1 調査結果の全体

(1) 地域福祉活動の担い手像

- 担い手の年齢をみると65歳以上が6～8割を占めており、高齢者が地域福祉活動を支えています。高齢化とメンバーの固定化が生じており、若い世代の参加促進や世代交代が課題となっています。
- 活動実態では、自治会系では子どもの見守りや防犯・防災活動、福祉系では見守りやサロン運営、相談などが行われています。
- 現状では高齢者対象の活動が多くなっており、ニーズに基づき、障害者、介護者、子育て中の方を対象を広げていく事が考えられます。
- 活動年数は、自治会・町内会は4割弱が、PTAでは約7割が2年以内となっており、短期間の活動にとどまっています。ボランティアは5年以上が多く、20年以上のベテランについても約2割を占めています。

(2) 活動の実態と直面している問題点

- 活動に関わる意識として、約7割に今後も活動を続けたいという意向がある一方で、全体の約6割が負担感を感じており、負担軽減策が求められています。
- 参加のきっかけは、活動経験者からの声かけに加えて、前向きな動機を捉える、機会づくりや情報提供となっており、参加促進策が求められています。
- 活動してよかったことは、出会いがある、仲間ができる、出番があることであり、これらの活動ニーズを満たしていく事が求められています。
- 対象者などの困りごとは、通院、買い物等の生活支援や、健康管理や介護、人のつながりが弱いことによる緊急災害時の不安等があります。
- 担い手が活動で困っていることは、人材の高齢化や固定化が突出しており、お金、場所等が続いています。活動の活性化に向けた支援策が求められています。

(3) これからの地域福祉活動

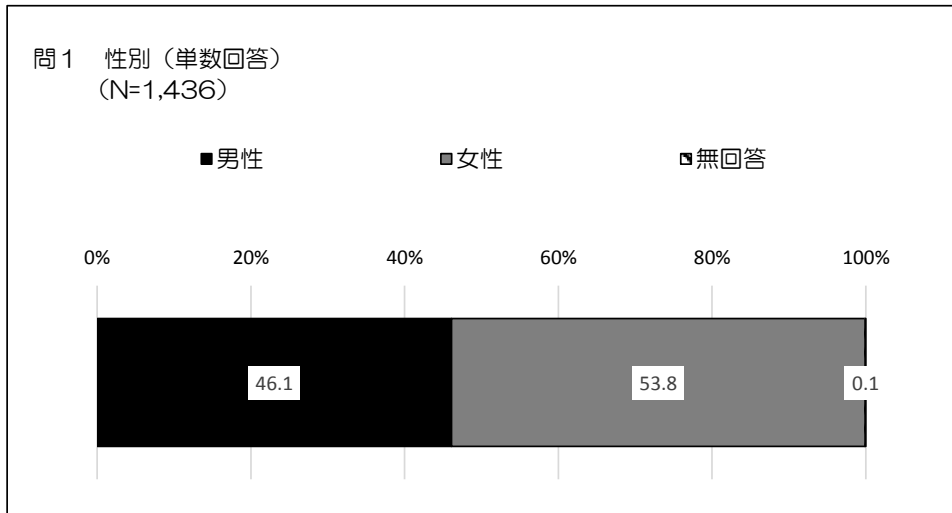
- 担い手を増やす工夫として、負担感軽減、自治会との地域密着で、活動経験者からの声かけ、退職者や子育てが終わった人など新しい層に働きかけ、広報の工夫などが上げられています。
- 相談先は仲間や身近な間柄が中心となっており、専門職等は気軽な相談先とはなっていないことがうかがわれます。
- 地域における連携先として、自治会・町内会に加えて、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、地域包括支援センター、在宅介護支援センターなどが上げられています。
- 活動継続の条件として、自分自身の健康、時間や経済的なゆとり、仲間や友人、家族の理解、経費助成などが上げられています。
- 明石市や市社会福祉協議会に期待することでは、活動助成、市民の啓発、相談体制、団体や組織間の連携調整、場所の確保、情報提供などが期待されています。

2 調査結果のまとめ

(1) 回答者について

問1 性別について、お答えください。【〇はひとつ】

○回答者の性別は「女性 (53.8%)」「男性 (46.1%)」となっており、女性の方が若干多くなっています。

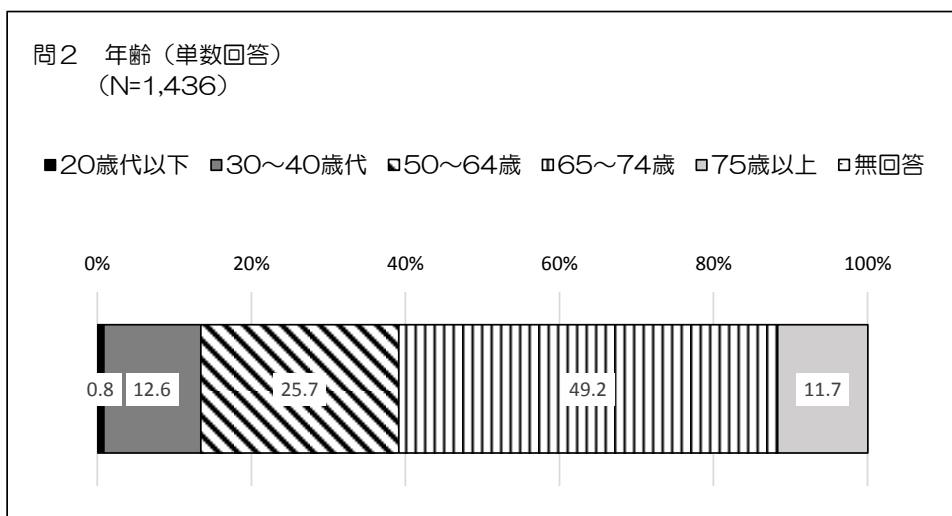


問2 年齢について、お答えください。【〇はひとつ】

○回答者の年齢は「65～74 歳 (49.2%)」が最も多く、「75 歳以上 (11.7%)」とあわせると、地域福祉活動の担い手は 65 歳以上が 6 割以上を占めています。

○「50～64 歳 (25.7%)」といった年齢層が続いています。

○「20 歳代以下 (0.8%)」「30～40 歳代 (12.6%)」といった、勤労層、子育て層は約 2 割となっています。



問3 現在のお住まいは、どの小学校区ですか。【○はひとつ】

○回答者の居住地は以下のとおりです。

明石ブロック					
調査数	松が丘	朝霧	人丸	中崎	明石
1,436	48	49	81	50	73
100.0	3.3	3.4	5.6	3.5	5.1

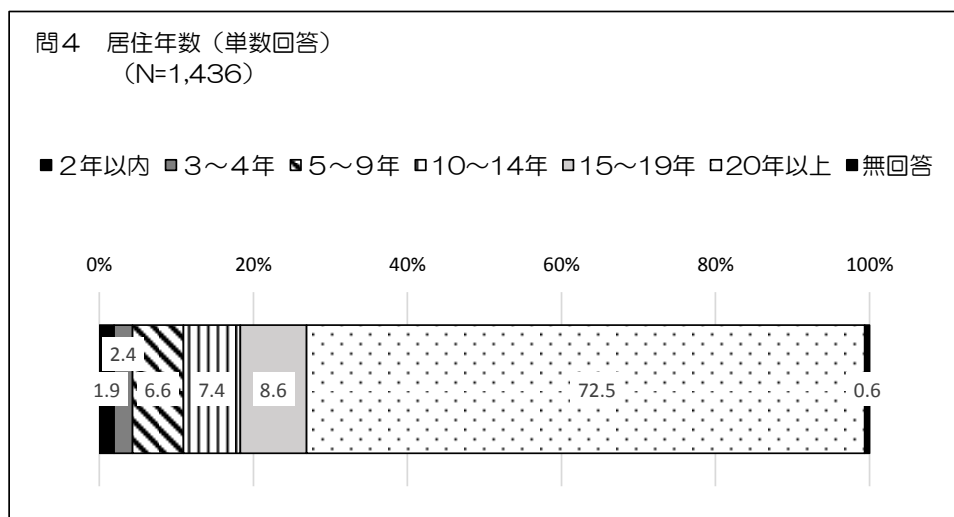
西明石ブロック								
大観	王子	林	貴崎	花園	藤江	和坂	鳥羽	沢池
42	49	72	30	31	73	40	48	42
2.9	3.4	5.0	2.1	2.2	5.1	2.8	3.3	2.9

大久保ブロック							
大久保 (大久保 中学校)	大久保 (大久保 北中学校)	谷八木	大久保南	山手	江井島	高丘西	高丘東
39	29	34	37	58	79	53	47
2.7	2.0	2.4	2.6	4.0	5.5	3.7	3.3

魚住・二見ブロック							市外	無回答
魚住	錦が丘	清水	錦浦	二見	二見西	二見北		
74	29	52	53	46	31	39	7	1
5.2	2.0	3.6	3.7	3.2	2.2	2.7	0.5	0.1

問4 現在のお住まいに、何年住んでいますか。【○はひとつ】

○回答者の居住年数は「20年以上 (72.5%)」が最も多く、全体の2/3を占めています。

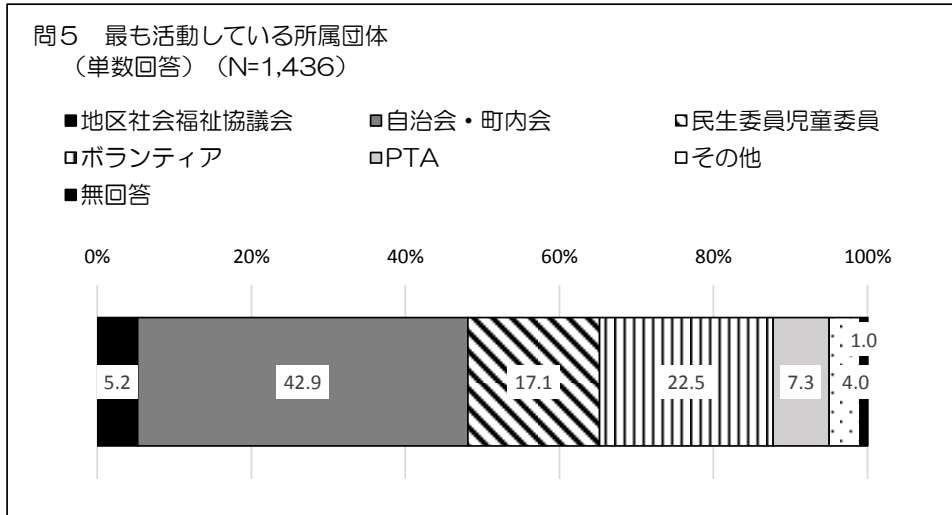


(2) 地域福祉活動について

問5 最も活動されている所属団体を選んでください。【○はひとつ】

担い手の6~8割が65歳以上であり、高齢者が活動を支えています

○最も活動している所属団体は、「自治会・町内会（42.9%）」が最も多く、「ボランティア（22.5%）」「民生委員児童委員（17.1%）」「PTA（7.3%）」「地区社会福祉協議会（5.2%）」が続いています。



調査数	地区社会福祉協議会	自治会・町内会	民生委員児童委員	ボランティア	PTA	その他	無回答
1,436	74	616	246	323	105	57	15
100.0	5.2	42.9	17.1	22.5	7.3	4.0	1.0

○所属団体について性別でみると、「自治会（男性 68.8%）」は男性が多くなっています。

○一方で、「ボランティア（女性 80.2%）」「PTA（女性 81.9%）」「民生委員児童委員（女性 66.3%）」は女性が多くなっています。

○地区社会福祉協議会はほぼ半々で、若干女性の方が多くなっています。

	男性	女性	無回答
全体 N=1,436	46.1	53.8	0.1
地区社会福祉協議会 N=74	45.9	52.7	1.4
自治会・町内会 N=616	68.8	31.0	0.2
民生委員児童委員 N=246	33.7	66.3	-
ボランティア N=323	19.8	80.2	-
PTA N=105	18.1	81.9	-
その他 N=57	52.6	47.4	-
無回答 N=15	53.3	46.7	-

○年齢でみると、65 歳以上の比率は「地区社会福祉協議会（85.2%）」「ボランティア（69.0%）」「民生委員児童委員（66.2%）」「自治会・町内会（61.8%）」となっており、担い手の高齢化が進んでいます。なかでも、地区社会福祉協議会は、全体と比較すると75 歳以上の比率が高くなっており、概ね 1/4 が 75 歳以上となっています。

○50～64 歳についてみると、全体と比較すると「民生委員児童委員（31.3%）」「自治会・町内会（27.1%）」「ボランティア（26.6%）」の比率が高くなっており、中高年層の参加があります。

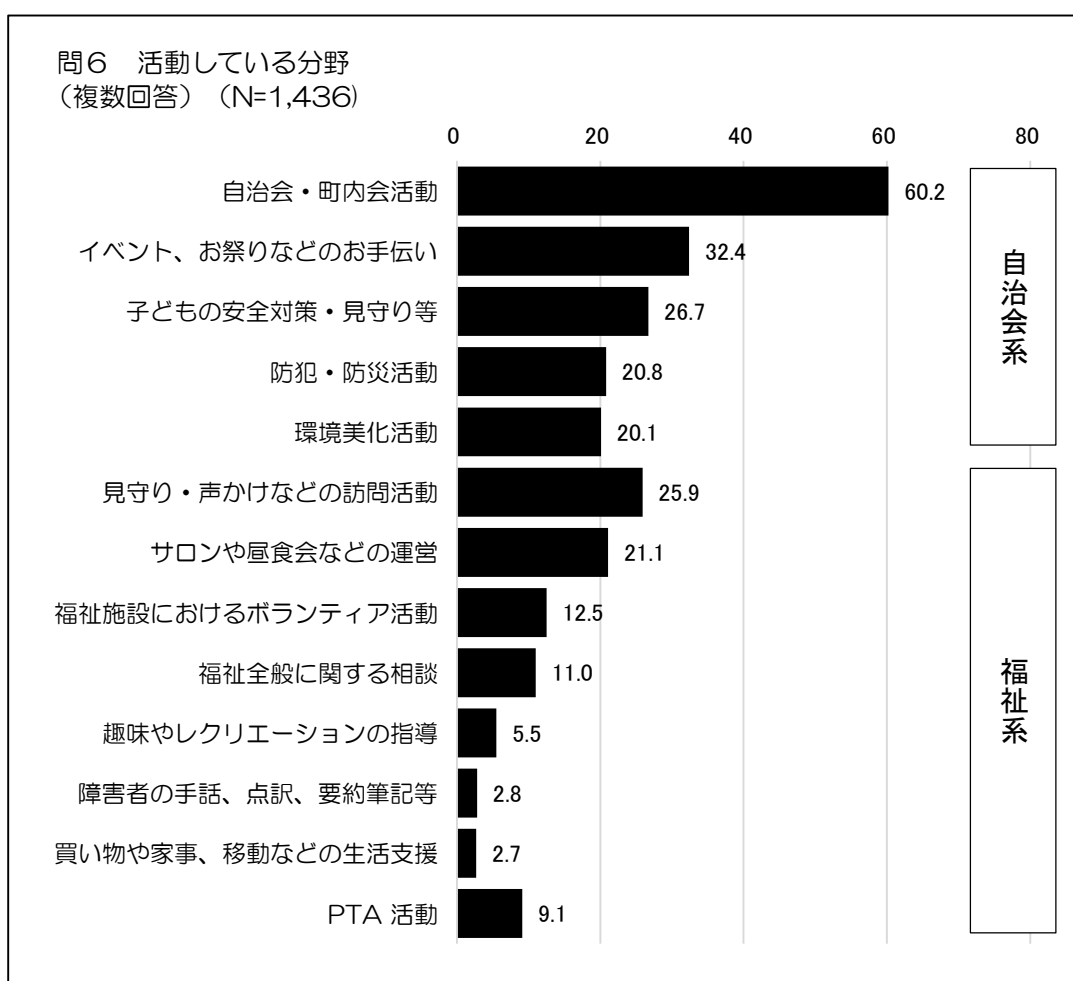
○PTAは30～40 歳代が9 割弱を占めています。

	20 歳代 以下	30～40 歳代	50～64 歳	①65～ 74 歳	②75 歳 以上	①+② 65 歳以 上
全体 N=1,436	0.8	12.6	25.7	49.2	11.7	60.9
地区社会福祉協議会 N=74	-	2.7	12.2	62.2	23.0	85.2
自治会・町内会 N=616	1.1	9.9	27.1	49.5	12.3	61.8
民生委員児童委員 N=246	-	2.4	31.3	63.4	2.8	66.2
ボランティア N=323	0.3	4.0	26.6	52.3	16.7	69.0
PTA N=105	2.9	86.7	9.5	1.0	-	1.0
その他 N=57	-	14.0	28.1	36.8	21.1	57.9
無回答 N=15	-	-	26.7	60.0	13.3	73.3

問6 活動している分野は、何ですか。【〇はいいくつでも】

自治会系では子どもの見守りや防犯・防災活動、福祉系では見守りやサロン運営、相談などが行われています

- 活動している分野は、自治会系では「自治会・町内会活動（60.2%）」が最も多く、「イベント、お祭りなどのお手伝い（32.4%）」「子どもの安全対策・見守り等（26.7%）」が続いています。自治会・町内会所属の回答者が多いことが活動分野に反映されています。
- 福祉系の活動分野では、「見守り・声かけなどの訪問活動（25.9%）」サロンや昼食会などの運営「(21.1%)」「福祉施設におけるボランティア活動（12.5%）」のように、地域福祉の活動分野が続いています。



○自治会系の活動分野について所属団体でみると、全体との比較で地区社会福祉協議会は「イベント、お祭りなどのお手伝い」「子どもの安全対策・見守り等」「防犯・防災活動」の回答が多く、自治会活動との兼務がうかがわれます。民生委員児童委員は、「子どもの安全対策・見守り等」への参加が見られます。

	活動している分野					自治会系
	自治会・町内会活動	お祭りなどの手伝い	イベント、お祭り等	子どもの安全対策・見守り等	防犯・防災活動	環境美化活動
全体 N=1,436	60.2	32.4	26.7	20.8	20.1	
地区社会福祉協議会 N=74	50.0	51.4	35.1	28.4	12.2	
自治会・町内会 N=616	95.6	32.1	22.6	31.8	29.5	
民生委員児童委員 N=246	51.6	34.6	44.7	18.3	13.8	
ボランティア N=323	20.1	27.9	18.0	5.6	11.5	
PTA N=105	15.2	23.8	25.7	5.7	4.8	
その他 N=57	43.9	43.9	33.3	19.3	31.6	
無回答 N=15	40.0	26.7	26.7	13.3	26.7	

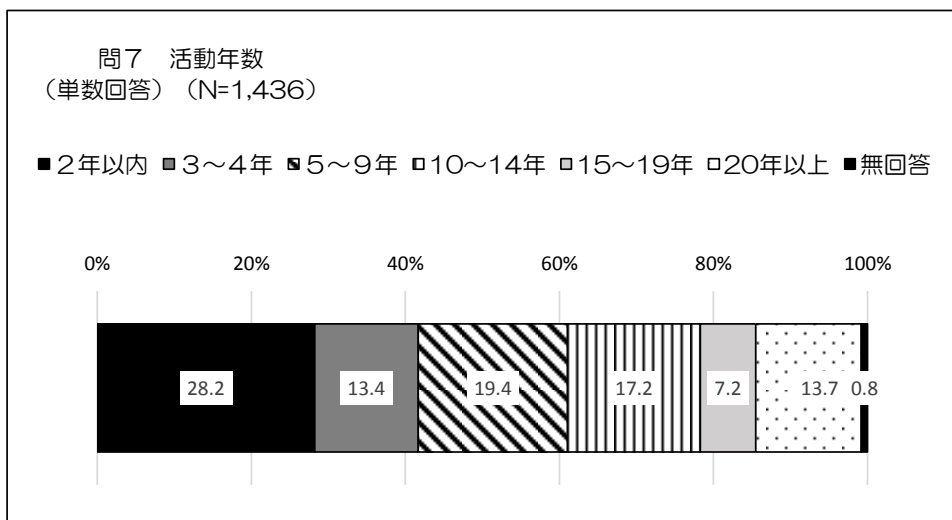
○福祉系の活動分野では、全体との比較で地区社会福祉協議会は、全体的な福祉分野に参加している様子が見られます。民生委員児童委員は「見守り・声かけなどの訪問活動」や「福祉全般に関する相談」に、ボランティアは「サロンや昼食会などの運営」「福祉施設におけるボランティア活動」への参加が見られます。

	活動している分野								福祉系			
	見守り・声かけなどの訪問活動	サロンや昼食会などの運営	ボランティア活動	福祉施設におけるボランティア活動	福祉全般に関する相談	指導	趣味やレクリエーション	約筆記等	話、点訳、要約	障害者の生活支援	買い物や家事、移動など	PTA活動
全体 N=1,436	25.9	21.1	12.5	11.0	5.5	2.8	2.7	9.1				
地区社会福祉協議会 N=74	44.6	29.7	27.0	25.7	9.5	2.7	4.1	4.1				
自治会・町内会 N=616	10.1	7.5	4.1	2.8	3.7	0.6	0.8	1.5				
民生委員児童委員 N=246	84.1	37.8	15.4	43.5	3.3	-	6.9	0.8				
ボランティア N=323	16.1	38.4	26.3	2.5	8.7	10.5	3.4	2.5				
PTA N=105	1.9	-	-	-	3.8	-	-	99.0				
その他 N=57	24.6	28.1	15.8	12.3	12.3	-	3.5	7.0				
無回答 N=15	13.3	13.3	13.3	-	13.3	-	6.7	6.7				

問7 現在の活動は、何年続けていますか。【○はひとつ】

10年以上の活動が4割弱を占めている一方で、4年以内が約4割あり、活動の継続支援が求められています

- 活動年数は「2年以内 (28.2%)」「3～4年 (13.4%)」をあわせると4年以内が約4割を占めています。活動年数の少ない方の継続が課題となっています。
- 一方で、「10～14年 (17.2%)」「15～19年 (7.2%)」「20年以上 (13.7%)」をあわせると10年以上が4割弱を占めています。



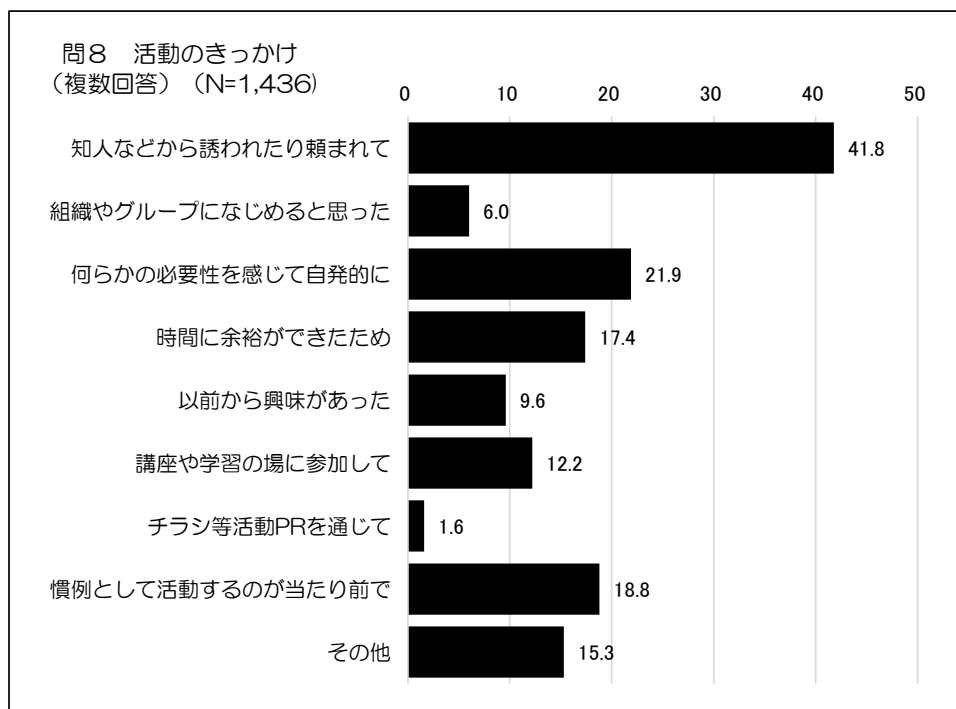
- 活動年数について活動年数でみると、全体と比較すると「自治会・町内会」は4割弱が、「PTA」では約7割が2年以内となっており、短期間の活動にとどまっていることがうかがわれます。
- 民生委員児童委員は5～14年が多くなっています。ボランティアは5年以上が多くなっており、20年以上についても約2割を占めています。地区社会福祉協議会は幅広い活動年数となっています。

	2年以内	3～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
全体 N=1,436	28.2	13.4	19.4	17.2	7.2	13.7	0.8
地区社会福祉協議会 N=74	5.4	16.2	25.7	18.9	13.5	20.3	-
自治会・町内会 N=616	39.3	13.3	15.7	13.8	5.2	11.5	1.1
民生委員児童委員 N=246	17.9	13.0	26.0	24.8	7.3	11.0	-
ボランティア N=323	8.0	13.9	23.5	20.7	11.1	22.3	0.3
PTA N=105	74.3	14.3	5.7	4.8	-	1.0	-
その他 N=57	14.0	8.8	26.3	22.8	8.8	17.5	1.8
無回答 N=15	20.0	13.3	13.3	13.3	13.3	6.7	20.0

問8 活動を始めたきっかけについて、お答えください。【〇はいくつでも】

「活動経験者からの声かけ」「前向きな動機」「機会づくりや情報提供」を捉えた、参加のきっかけづくりが求められています

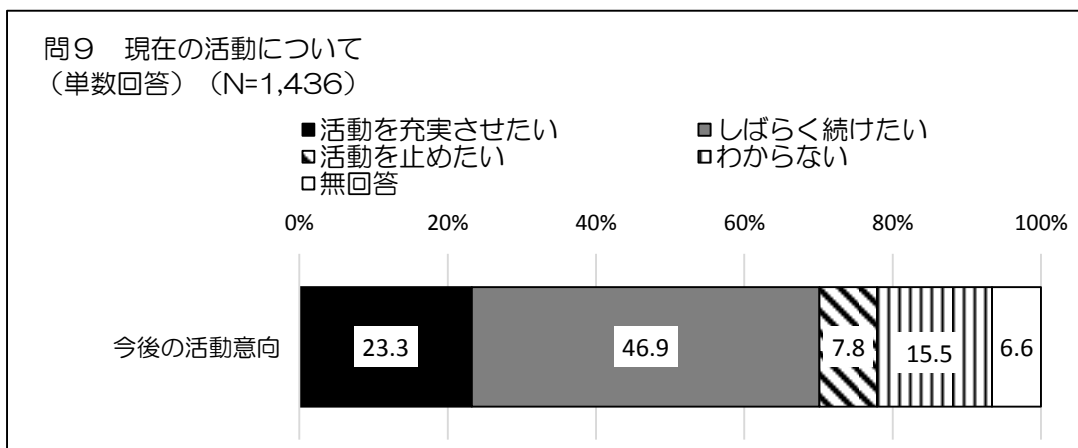
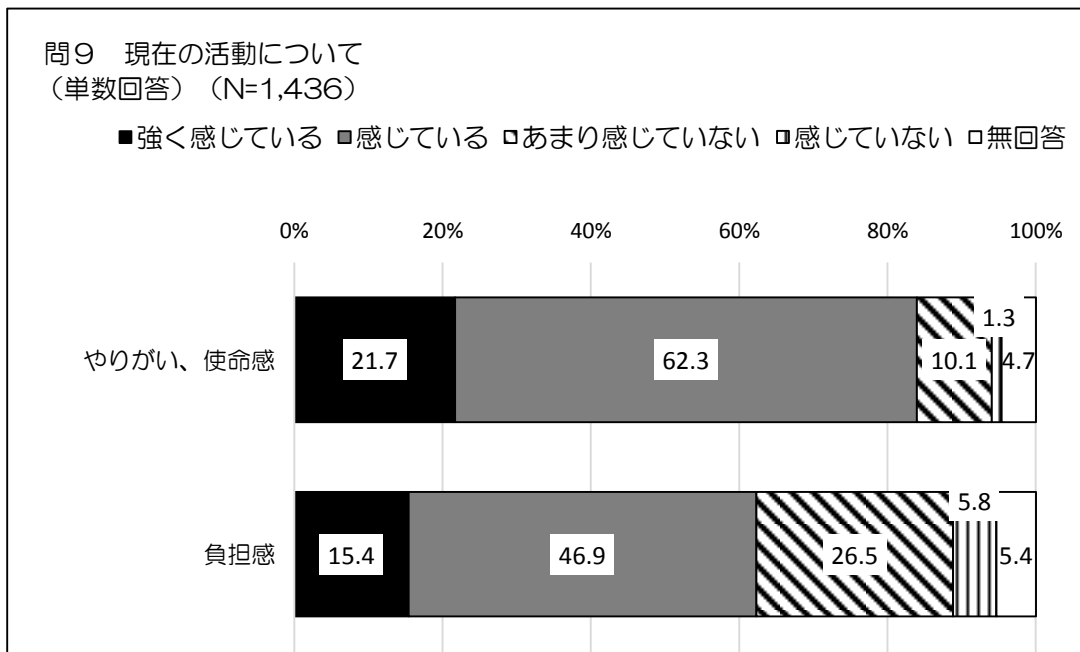
- 活動を始めたきっかけは「知人から誘われたり頼まれて (41.8%)」が突出しており、人のつながり（活動経験者からの声かけ）が最も大きなきっかけとなっています。
- 「何らかの必要性を感じて自発的に (21.9%)」「時間に余裕ができたため (17.4%)」「以前から興味があった (9.6%)」が続いており、前向きな動機を捕まえる必要性が示されています。
- 「講座や学習の場に参加して (12.2%)」「チラシ等活動PRを通じて (1.6%)」の回答から、機会づくりや情報提供が有効なことがうかがわれます。
- その他については、「役員の選挙・くじ引きで」「役員の輪番制で」の他に、民生委員児童委員は「行政からの依頼で」といった記述がありました。また、「あかねが丘学園での学習がきっかけで」「阪神淡路大震災を経験して」のように、自発的なきっかけについて記述がありました。



問9 現在の活動について、どのように感じていますか。【それぞれ〇はひとつ】

約7割に今後の活動意向がある一方で、約6割が負担感を感じており、活動の支援が求められています

- 「強く感じている」「感じている」をあわせると、84%が「やりがい、使命感」を感じています。一方で62.3%が「負担感」を感じています。
- 「活動を充実させたい（23.3%）」「しばらく続けたい（46.9%）」をあわせると、約7割に今後の活動意向があります。一方で、「活動を止めたい（7.8%）」といった意向があります。



○負担を感じている回答者について所属団体でみると、全体と比較すると「民生委員児童委員（76.4%）」「PTA（76.2%）」「自治会・町内会（68.9%）」が若干、高くなっています。

	①負担感を強く感じている	②感じている	①+②	あまり感じていない	感じていない	無回答
全体 N=1,436	15.4	46.9	62.3	26.5	5.8	5.4
地区社会福祉協議会 N=74	8.1	43.2	51.3	35.1	8.1	5.4
自治会・町内会 N=616	20.5	48.4	68.9	22.4	3.4	5.4
民生委員児童委員 N=246	15.0	61.4	76.4	18.3	2.4	2.8
ボランティア N=323	3.7	35.3	39.0	40.6	14.9	5.6
PTA N=105	27.6	48.6	76.2	20.0	-	3.8
その他 N=57	15.8	38.6	54.4	31.6	5.3	8.8
無回答 N=15	13.3	40.0	53.3	6.7	-	40.0

○今後の活動意向については、全体と比較すると「ボランティア（89.7%）」「民生委員児童委員（78.8%）」「地区社会福祉協議会（78.3%）」について、前向きな活動意向が示されています。

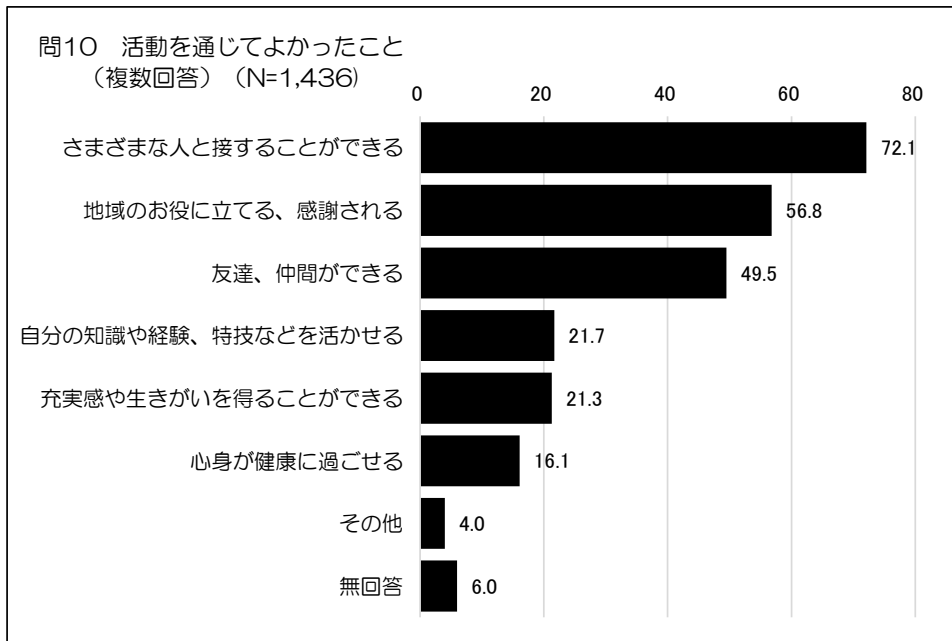
	①活動を充実させたい	②しばらく続けたい	①+②	活動を止めたい	わからない	無回答
全体	23.3	46.9	70.2	7.8	15.5	6.6
地区社会福祉協議会	32.4	45.9	78.3	4.1	6.8	10.8
自治会・町内会	18.7	39.9	58.6	11.0	23.2	7.1
民生委員児童委員	21.1	57.7	78.8	5.7	10.2	5.3
ボランティア	30.3	59.4	89.7	2.5	3.1	4.6
PTA	26.7	26.7	53.4	10.5	31.4	4.8
その他	29.8	42.1	71.9	8.8	8.8	10.5
無回答	-	46.7	46.7	20.0	6.7	26.7

問10 活動を通じて良かったことは、何ですか。【〇はいくつでも】

「出会い」「仲間」「出番」といった活動ニーズを満たしていく事が求められています

○活動を通じてよかったことは「さまざまな人と接することができる (72.1%)」が最も多く、「地域のお役に立てる、感謝される (56.8%)」「友達、仲間ができる (49.5%)」の回答が多くなっています。

○人のつながりができること、役立っているという充実感が活動につながっています。

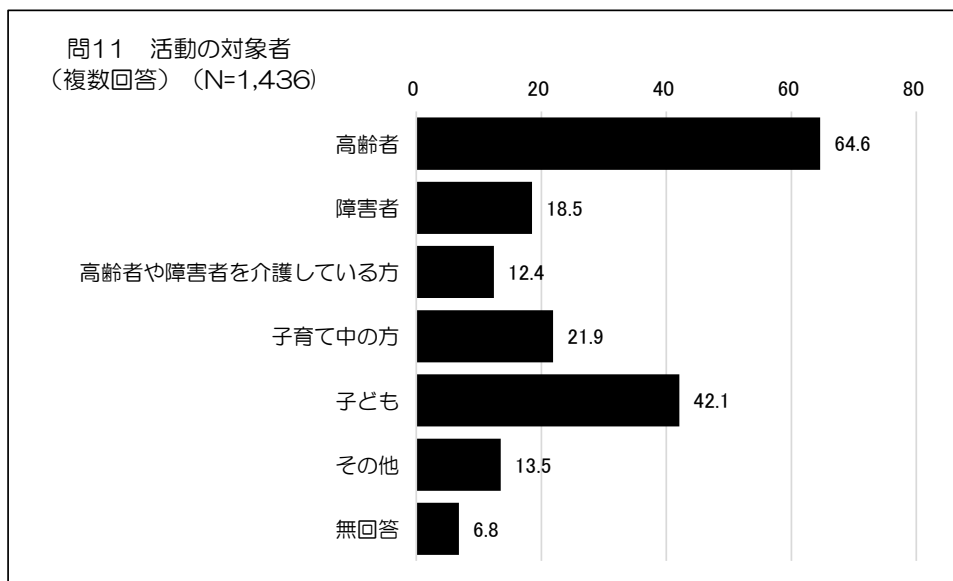


(3) 地域福祉活動の問題点について

問11 活動の対象者は、どんな方々ですか。【〇はいくつでも】

高齢者対象の活動が多く、ニーズに基づき「障害者」「介護者」「子育て中の方」に対象を広げていく事が考えられます

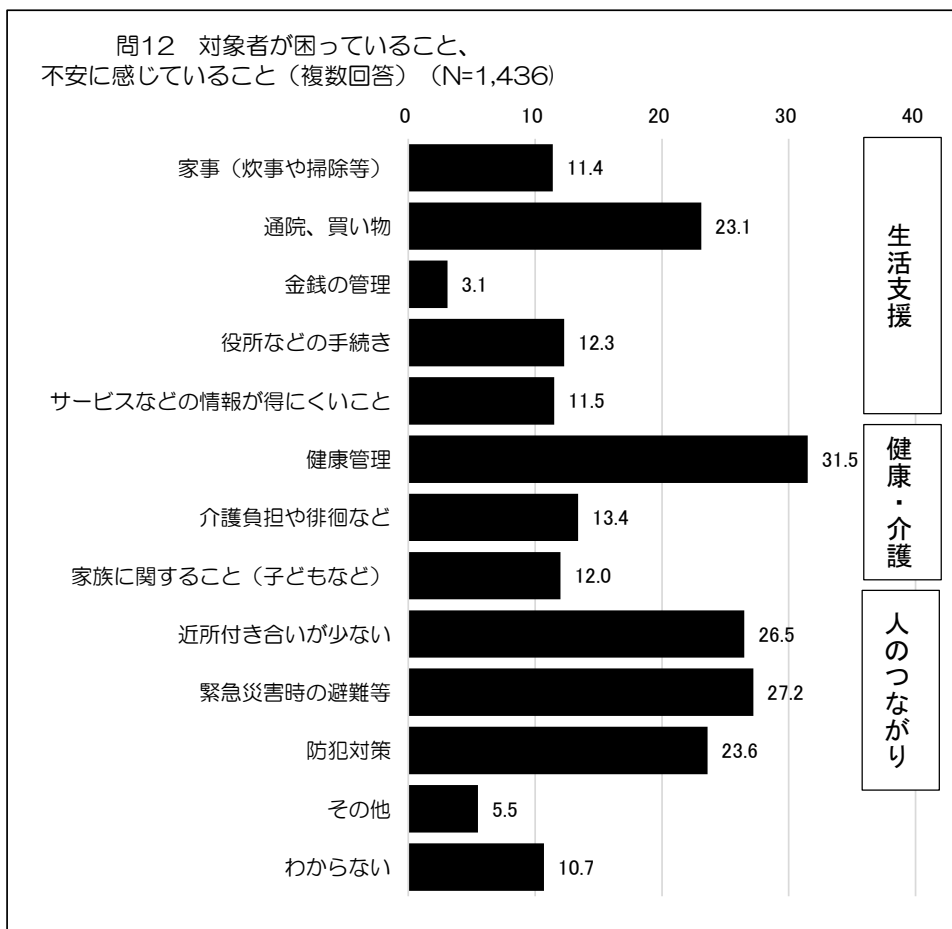
- 活動の対象者は「高齢者（64.6%）」が最も多くなっています。
- 「子ども（42.1%）」や「子育て中の方（21.9%）」など子育て支援や「障害者（18.5%）」が続いています。



問12 対象者の方やご近所の方が「困っていること」や「不安に感じていること」など、よくお聞きすることはどんなことですか。【〇はいくつでも】

対象者の困りごとは、通院、買い物等の生活支援、健康管理や介護、人のつながりが弱いことによる緊急災害時の不安等があります

- 対象者の方やご近所の方が「困っていること」や「不安に感じていること」は、「健康管理（31.5%）」「緊急災害時の避難等（27.2%）」「近所付き合いが少ない（26.5%）」「防犯対策（23.6%）」「通院、買い物（23.1%）」が多くなっています。
- 生活支援に係るものでは、「通院、買い物（23.1%）」「役所などの手続き（12.3%）」「家事（炊事や掃除等）（11.4%）」となっています。
- 健康や介護について、「健康管理（31.5%）」とともに「介護負担や徘徊など（13.4%）」「家族に関すること（子どもなど）（12.0%）」があります。
- 人のつながりでは、「近所づきあいが少ない（26.5%）」ことから、「緊急災害時の避難等（27.2%）」「防犯対策（23.6%）」について回答が高くなっています。



○「困っていること」「不安に感じていること」を活動の対象者別にみると、「健康管理」「緊急災害時の避難等」「近所付き合いが少ない」「通院、買い物」が共通して上位となっています。

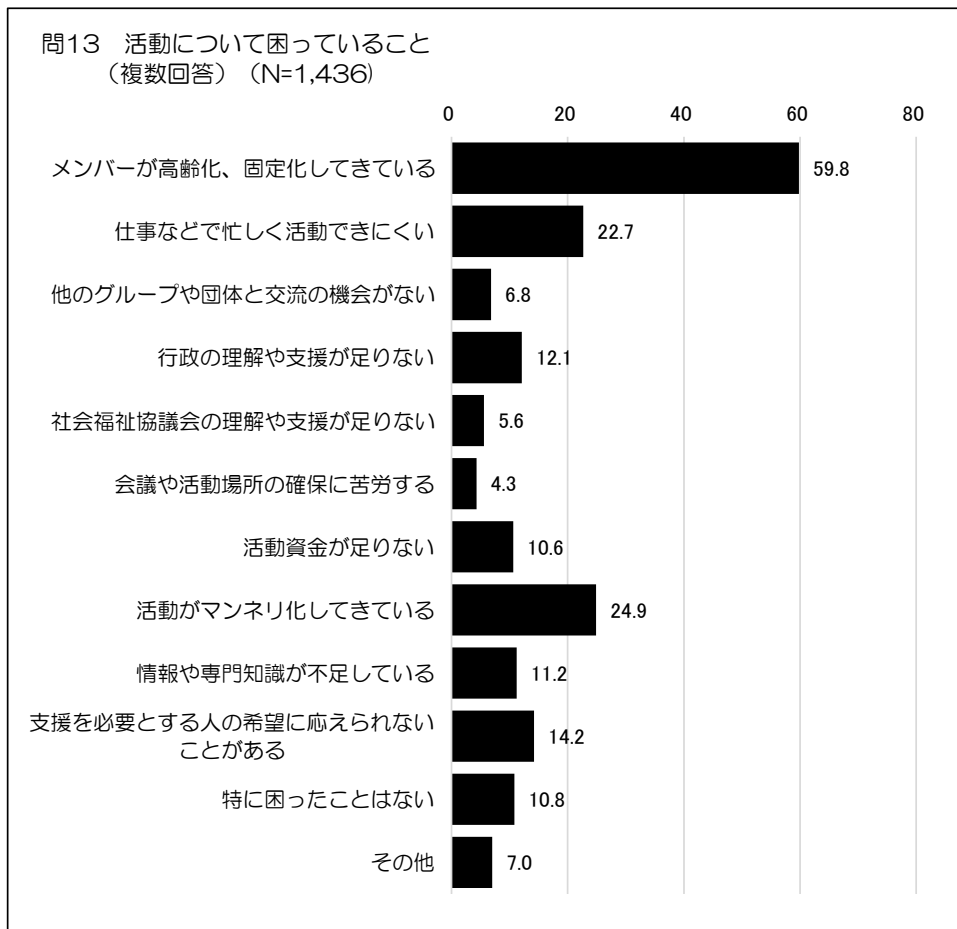
○その他に、子育て中の方では「防犯対策」が、高齢者では「介護負担や徘徊など」が、障害者では「役所などの手続き」が上げられています。

	健康管理	緊急災害時の避難等	近所付き合いが少ない	防犯対策	通院、買い物	介護負担や徘徊など	役所などの手続き	家族に関すること(子どもなど)	サービスクイック情報	家事(炊事や掃除等)	金銭の管理
全体 N=1,436	31.5	27.2	26.5	23.6	23.1	13.4	12.3	12.0	11.5	11.4	3.1
高齢者 N=928	① 41.7	② 32.4	② 32.4	⑤ 25.5	④ 29.3	16.7	14.5	9.7	12.5	14.3	3.4
障害者 N=266	① 43.2	① 43.2	④ 28.9	21.1	③ 35.0	23.7	⑤ 24.8	16.9	19.2	19.2	6.0
高齢者や障害者を介護している方 N=178	① 45.5	② 42.7	④ 34.3	25.3	③ 38.2	⑤ 30.9	22.5	20.8	18.0	19.7	7.3
子育て中の方 N=315	① 36.2	① 36.2	③ 32.7	26.0	⑤ 27.9	20.0	16.5	④ 30.2	14.3	15.9	6.0
子ども N=604	① 33.8	② 30.6	④ 28.0	③ 29.6	⑤ 24.5	14.6	14.7	19.9	14.1	11.4	3.5
その他 N=194	19.6	26.3	22.7	28.9	13.9	12.9	11.3	7.2	7.7	4.6	2.1
無回答 N=97	4.1	9.3	5.2	9.3	2.1	2.1	1.0	2.1	4.1	1.0	-

問13 現在、活動している中で困っていることは、何ですか。【〇はいくつでも】

活動で困っていることは、人材（若い人の参加や世代交代）、お金、場所等です

- 活動について困っていることは「メンバーが高齢化、固定化していること（59.8%）」が突出しており、世代交代が課題となっています。
- 「活動がマンネリ化してきている（24.9%）」「情報や専門知識が不足している（11.2%）」のように活動内容の活性化が求められています。
- 「情報や専門知識が不足している（11.2%）」「活動資金が足りない（10.6%）」「会議や活動場所の確保に苦勞する（4.3%）」といった問題も生じています。



- 活動について困っていることを所属団体別にみると、PTA以外は「メンバーが高齢化、固定化してきている」「活動がマンネリ化してきている」「支援を必要とする人の希望に応えられないことがある」が共通して上位となっています。
- PTAでは「仕事などで忙しく活動できにくい」が突出しています。
- 負担感を感じている回答者では、「メンバーの高齢化、固定化」「マンネリ化」以外に、「会議や活動場所の確保に苦勞する」「活動資金が足りない」等が上げられています。人材面以外に、交流の機会づくり、活動資金の確保、活動場所の確保等が求められています。

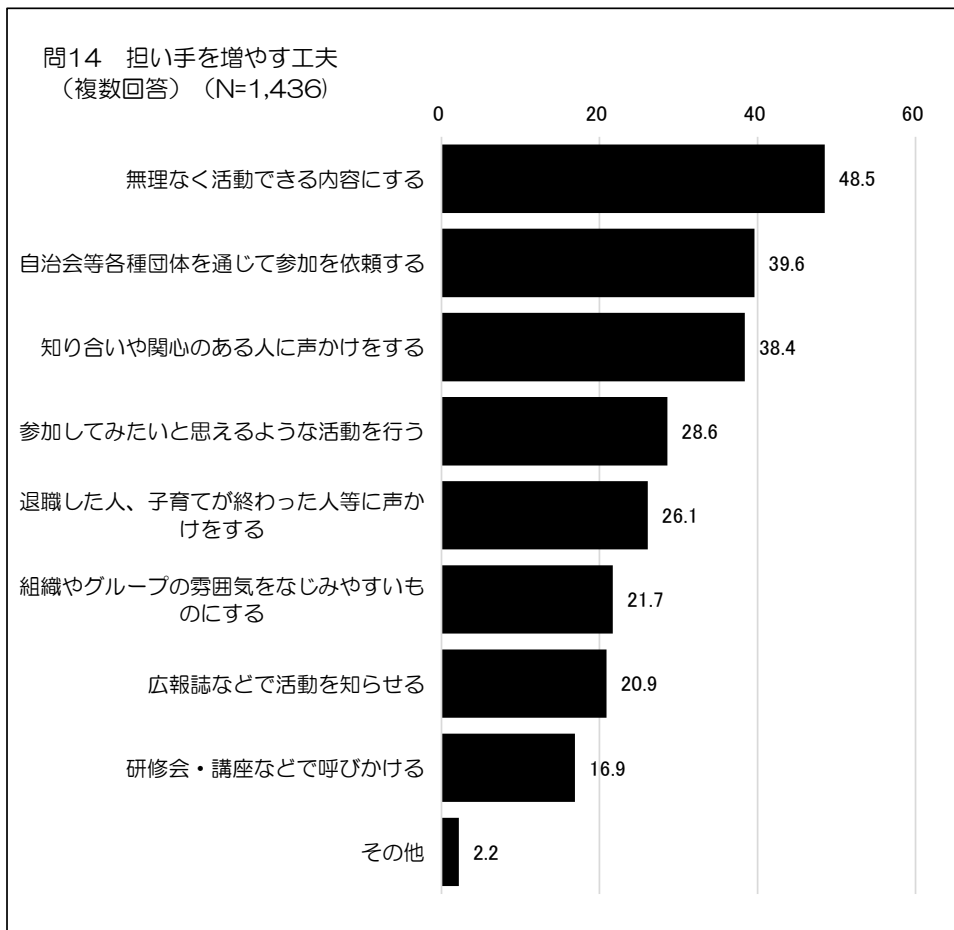
	メンバーが高齢化、固定化してきている	活動がマンネリ化してきている	仕事などで忙しく活動できにくい	支援を必要とする人の希望に応えられないことがある	行政の理解や支援が足りない	情報や専門知識が不足している	活動資金が足りない	他のグループや団体と交流の機会がない	社会福祉協議会の理解や支援が足りない	会議や活動場所の確保に苦勞する
全体 N=1,436	59.8	24.9	22.7	14.2	12.1	11.2	10.6	6.8	5.6	4.3
地区社会福祉協議会 N=74	① 81.1	② 21.6	6.8	③ 20.3	18.9	16.2	16.2	8.1	12.2	1.4
自治会・町内会 N=616	① 62.2	③ 26.5	② 30.4	9.4	14.4	12.3	10.2	6.0	4.7	3.1
民生委員児童委員 N=246	① 50.8	③ 24.8	23.2	② 30.1	9.3	17.5	8.5	7.3	4.9	4.1
ボランティア N=323	① 72.8	② 24.1	6.5	③ 12.4	9.6	5.3	9.9	9.0	6.8	9.0
PTA N=105	③ 15.2	② 21.9	① 41.9	6.7	5.7	7.6	11.4	-	2.9	1.0
その他 N=57	54.4	22.8	14.0	15.8	15.8	7.0	17.5	10.5	7.0	1.8
無回答 N=15	60.0	26.7	26.7	6.7	13.3	6.7	13.3	6.7	6.7	6.7
負担感を強く感じている N=221	① 57.5	② 43.4	5.9	17.2	10.4	2.3	⑤ 18.1	③ 26.2	14.9	④ 19.9
感じている N=674	① 61.3	② 27.0	6.5	⑤ 13.9	4.7	5.2	12.0	③ 26.0	12.9	④ 16.8

(4) これからの地域福祉活動について

問14 現在行っている担い手を増やす工夫についてお答えください。【〇はいくつでも】

担い手を増やす工夫として、負担感軽減、自治会との地域密着で、活動経験者からの声かけ、新しい層に働きかけ、広報の工夫があります

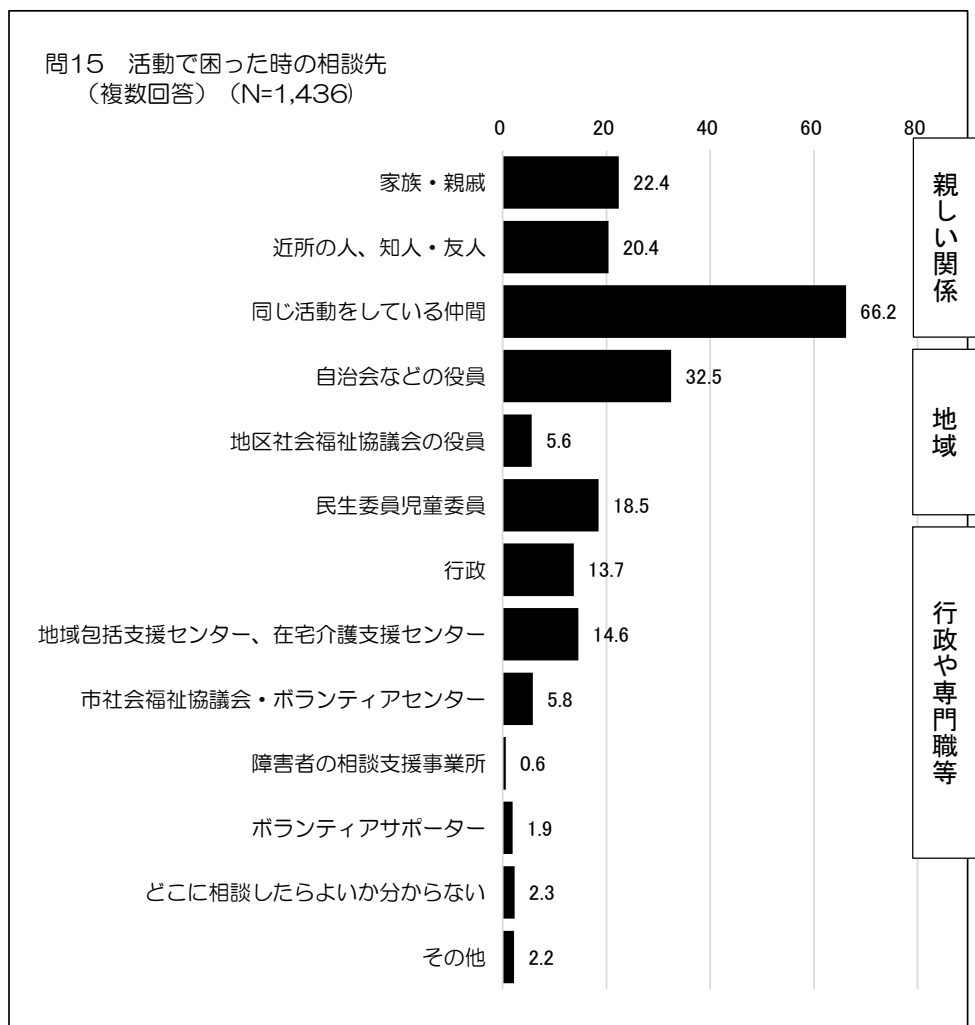
- メンバーが高齢化、固定化していることに対して、担い手を増やす工夫は、「無理なく活動できる内容にする（48.5%）」が最も多くなっています。
- 「自治会等各種団体を通じて参加を依頼する（39.6%）」「知り合いや関心のある人に声かけをする（38.4%）」が続いており、声かけの工夫があります。
- 新しい人材の確保について、「退職した人、子育てが終わった人等に声かけをする（26.1%）」「組織やグループの雰囲気なじみやすいものとする（21.7%）」といった工夫がみられます。また、新たな広報として「広報誌などで活動を知らせる（20.9%）」「研修会・講座などで呼びかける（16.9%）」といった工夫がみられます。



問 15 活動する中で困ったときの相談相手は、誰ですか。【〇はいくつでも】

相談先は仲間や身近な間柄であり、専門職等は気軽な相談先とはなっていないことがうかがわれます

- 活動で困った時の相談先は「同じ活動をしている仲間（66.2%）」が突出しています。
- 親しい間柄では「家族・親戚（22.4%）」「近所の人、知人・友人（20.4%）」となっています。
- 地域では、「自治会などの役員（32.5%）」「地区社会福祉協議会の役員（5.6%）」となっています。
- 行政や専門職では「民生委員児童委員（18.5%）」「行政（13.7%）」「地域包括支援センター、在宅介護支援センター（14.6%）」「市社会福祉協議会・ボランティアセンター（5.8%）」となっています。



○所属団体でみると、全体とほぼ同様の傾向であり、相談先は仲間や身近な間柄の人となっています。

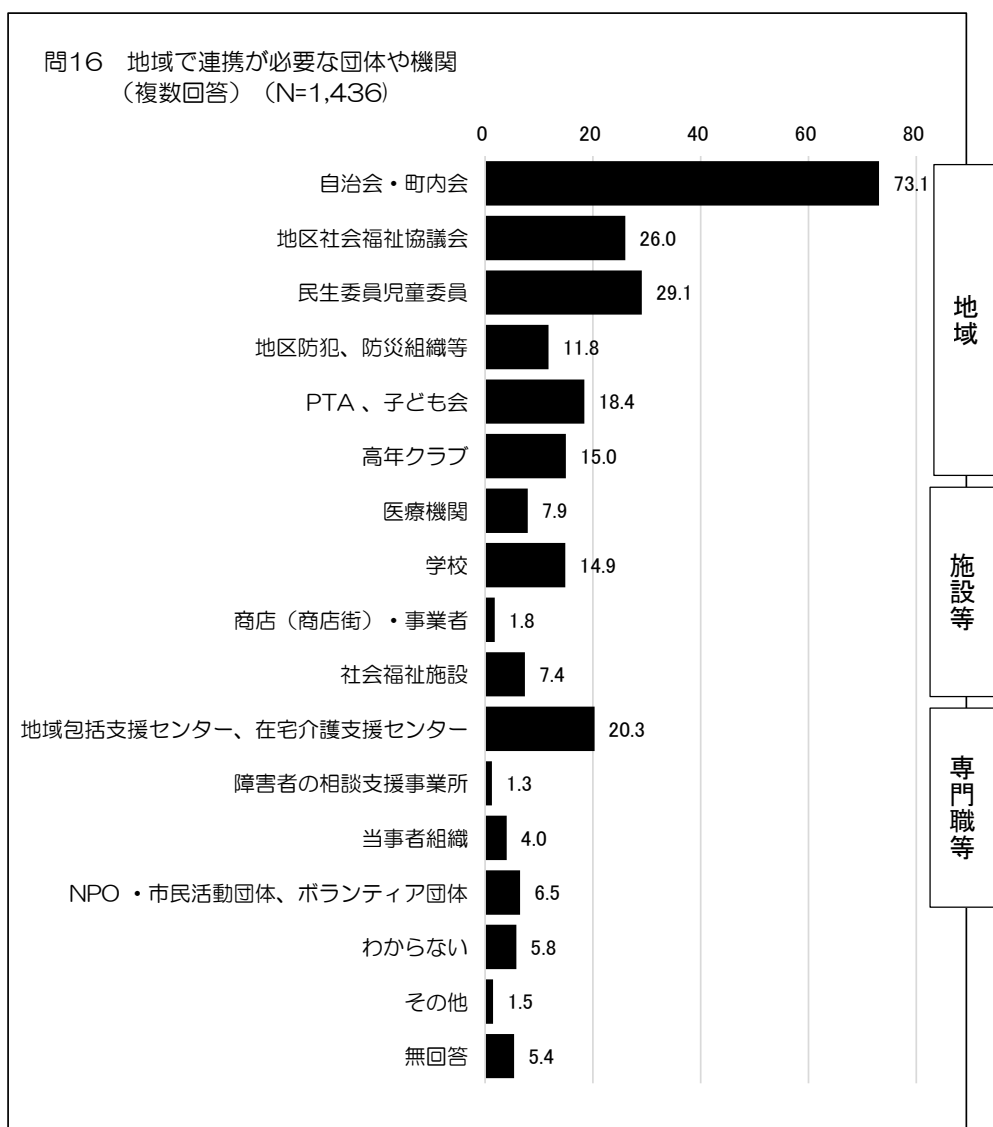
○専門職に対する相談の機会は多くない状況があり、気軽な相談先とはなっていないことがうかがわれます。

	同じ活動をしている仲間	自治会などの役員	家族・親戚	近所の人、知人・友人	民生委員児童委員	地域包括支援センター、在宅介護支援センター	行政	市社会福祉協議会・ボランティアセンター	地区社会福祉協議会の役員	ボランティアサポーター	障害者の相談支援事業所
全体 N=1,436	66.2	32.5	22.4	20.4	18.5	14.6	13.7	5.8	5.6	1.9	0.6
地区社会福祉協議会 N=74	① 79.7	13.5	14.9	13.5	③ 18.9	20.3	16.2	10.8	② 31.1	2.7	2.7
自治会・町内会 N=616	② 48.1	① 61.2	21.4	③ 25.3	12.5	5.5	14.4	2.1	3.2	0.6	0.2
民生委員児童委員 N=246	① 79.7	17.1	23.2	13.0	② 53.3	③ 45.5	④ 29.3	6.5	8.9	0.4	2.0
ボランティア N=323	① 83.0	5.0	② 18.3	③ 14.6	11.1	11.8	3.7	13.6	4.3	5.3	0.3
PTA N=105	① 83.8	5.7	② 45.7	③ 35.2	1.9	-	1.0	-	-	-	-
その他 N=57	68.4	22.8	21.1	15.8	7.0	14.0	17.5	3.5	1.8	7.0	-
無回答 N=15	33.3	20.0	20.0	13.3	13.3	13.3	6.7	-	-	-	-

**問 16 活動にあたり、地域において連携が必要と思われる主な団体、機関は、何ですか。
【〇は3つ】**

自治会・町内会に加えて、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、地域包括支援センター、在宅介護支援センター等との連携が必要とされています

○地域において連携が必要と思われる主な団体、機関は、「自治会・町内会（73.1%）」が突出しています。その他に、「民生委員児童委員（29.1%）」や「地区社会福祉協議会（26.0%）」、専門職である「地域包括支援センター、在宅介護支援センター（20.3%）」が続いています。



○所属団体でみると、共通して連携が必要な団体の第1番目に「自治会・町内会」が上げられています。その他の連携先として、地区社会福祉協議会では「民生委員児童委員」が、自治会・町内会やボランティアでは「民生委員児童委員」「地区社会福祉協議会」が上げられています。

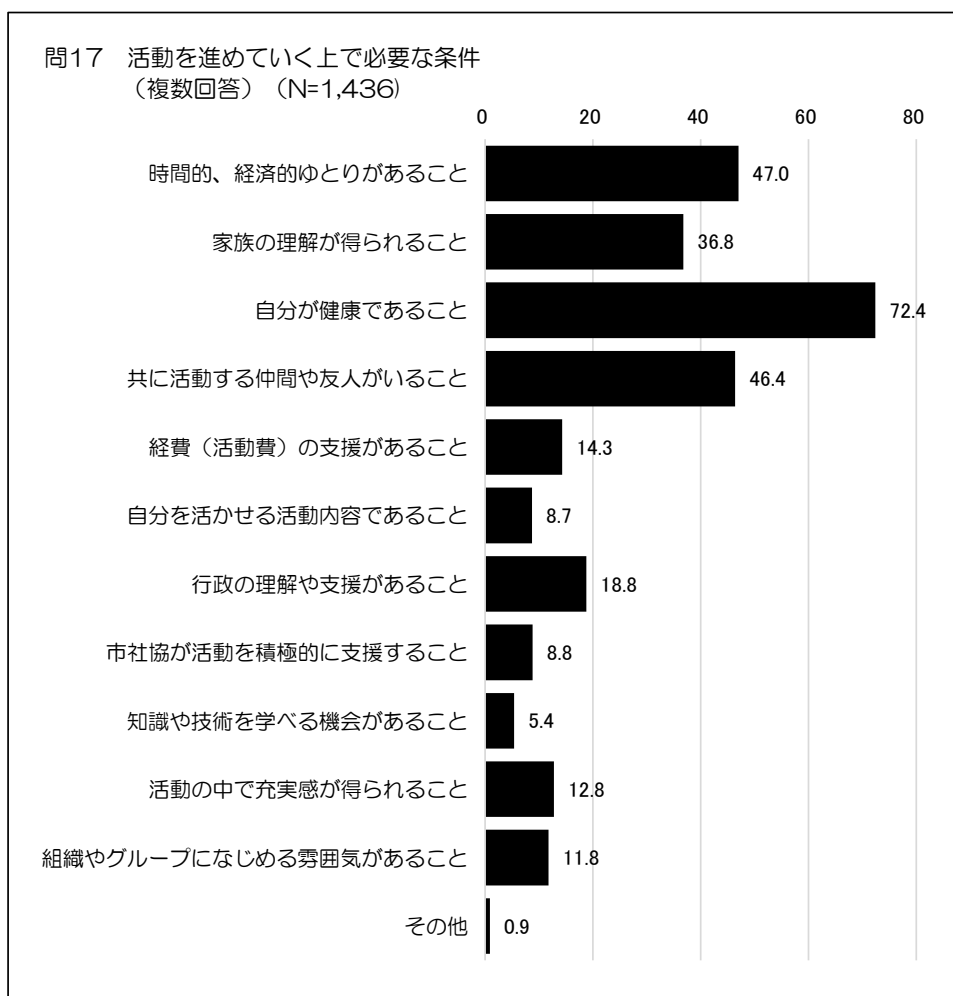
○その他に、民生委員児童委員では「地域包括支援センター、在宅介護支援センター」が、PTAでは「学校」「PTA、子ども会」が上げられています。

	自治会・町内会	民生委員児童委員	地区社会福祉協議会	地域包括支援センター、在宅介護支援センター	PTA、子ども会	高年クラブ	学校	地区防犯、防災組織等	医療機関	社会福祉施設	ZOO・市民活動団体、ボランティア団体
全体 N=1,436	73.1	29.1	26.0	20.3	18.4	15.0	14.9	11.8	7.9	7.4	6.5
地区社会福祉協議会 N=74	① 67.6	③ 37.8	② 55.4	25.7	16.2	13.5	5.4	8.1	8.1	6.8	9.5
自治会・町内会 N=616	① 80.4	② 26.1	③ 20.3	10.7	18.7	18.3	12.2	③ 20.3	9.3	6.5	4.4
民生委員児童委員 N=246	① 78.9	② 51.6	28.0	③ 50.4	8.1	8.1	13.4	4.5	9.3	4.9	2.4
ボランティア N=323	① 61.6	③ 25.4	② 35.9	21.4	9.9	17.6	8.0	1.9	5.0	13.3	14.6
PTA N=105	① 62.9	4.8	5.7	1.0	② 67.6	1.9	③ 59.0	16.2	5.7	1.9	4.8
その他 N=57	68.4	22.8	26.3	14.0	22.8	21.1	24.6	5.3	5.3	5.3	1.8
無回答 N=15	46.7	13.3	6.7	26.7	6.7	6.7	-	13.3	20.0	6.7	-

問17 地域の中で福祉活動を進めていくうえで、必要な条件は、何ですか。【〇は3つ】

健康、時間・経済的なゆとり、仲間や友人、家族の理解、経費助成などの活動支援が活動継続の条件となっています

- 活動を進めていく上で必要な条件は、「自分が健康であること（72.4%）」が突出しています。
- 「時間的、経済的ゆとりがあること（47.0%）」「ともに活動する仲間や友人がいること（46.4%）」「家族の理解が得られること（36.8%）」が続いています。
- その他に、「行政の理解や支援があること（18.8%）」「経費（活動費）の支援があること（14.3%）」といった活動支援が求められています。



○性別でみると、女性では「家族の理解が得られること」の回答が多くなっています。

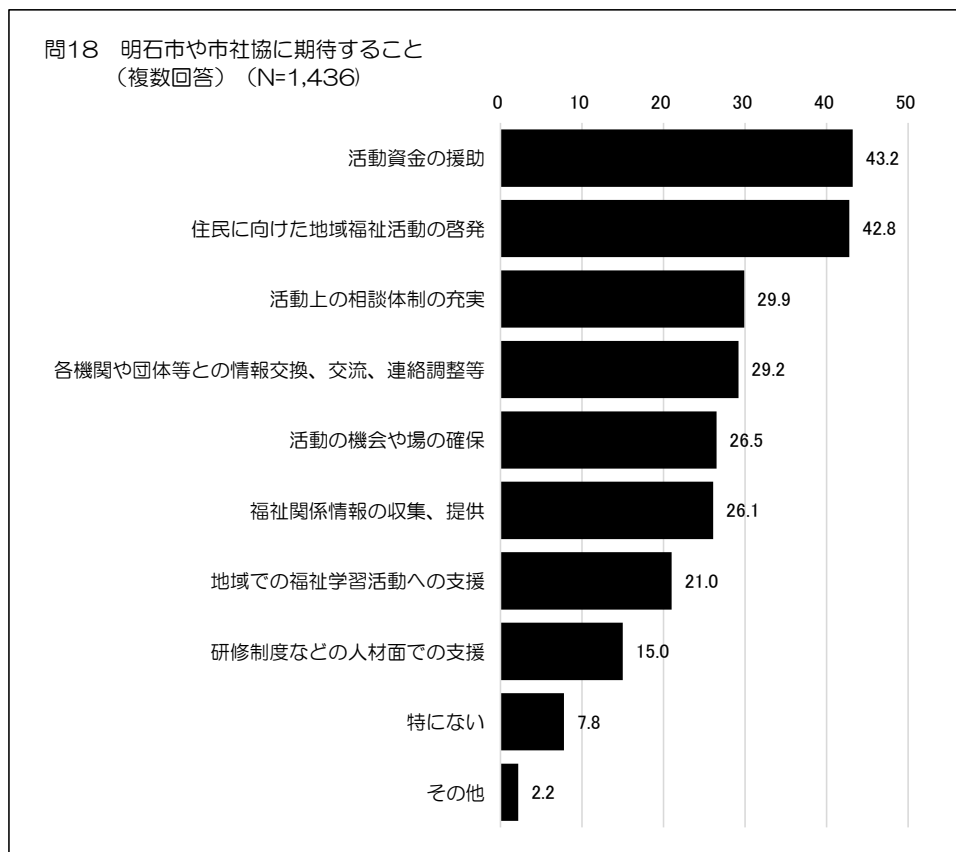
○年齢別では、20歳代以下では「経費（活動費）の支援があること」が上げられています。

	自分が健康であること	時間的、経済的ゆとりがあること	共に活動する仲間や友人がいること	家族の理解が得られること	行政の理解や支援があること	経費（活動費）の支援があること	活動の中で充実感が得られること	組織やグループになじめる雰囲気があること	市社協が活動を積極的に支援すること	自分を活かせる活動内容であること	知識や技術を学べる機会があること
全体 N=1,436	72.4	47.0	46.4	36.8	18.8	14.3	12.8	11.8	8.8	8.7	5.4
男性 N=662	① 68.3	② 53.0	③ 42.6	27.9	23.7	15.0	12.4	13.9	9.1	8.5	5.3
女性 N=772	① 76.0	② 42.0	② 49.7	③ 44.4	14.5	13.7	13.2	10.0	8.3	8.9	5.3
無回答 N=2	50.0	-	-	-	50.0	-	-	50.0	100.0	-	50.0
20歳代以下 N=11	③ 27.3	① 72.7	③ 27.3	② 45.5	-	③ 27.3	9.1	9.1	-	9.1	-
30～40歳代 N=181	② 48.6	① 69.1	③ 47.5	42.5	16.6	14.9	7.7	14.9	6.1	7.7	4.4
50～64歳 N=369	① 66.4	② 53.4	③ 46.3	36.0	19.2	15.4	12.2	13.3	8.4	9.2	6.8
65～74歳 N=707	① 78.9	③ 41.2	② 45.5	37.8	18.7	13.6	13.9	11.0	9.6	8.5	5.1
75歳以上 N=168	① 86.9	③ 32.1	② 50.0	27.4	22.0	13.1	15.5	8.9	9.5	9.5	4.8

問 18 明石市や市社会福祉協議会に期待することは、何ですか。【〇は3つ】

お金、啓発、相談体制、連携調整、場所、情報提供などが期待されています

- 明石市や市社協に対する期待は、「活動資金の援助（43.2%）」「住民に向けた地域福祉活動の啓発（42.8%）」が多くなっています。
- その他に、「活動上の相談体制の充実（29.9%）」「各機関や団体等との情報交換、交流、連絡調整等（29.2%）」「活動の機会や場の確保（26.5%）」「福祉関係情報の収集、提供（26.1%）」が続いています。



○所属団体でみると、お金や啓発以外では、地区社会福祉協議会やボランティアでは「活動の機会や場の確保」の回答が多くなっています。

○対象者別では、障害者や高齢者や障害者を介護している方では、「各機関や団体等との情報交換、交流、連絡調整等」が上げられています。

	活動資金の援助	住民に向けた地域福祉活動の啓発	活動上の相談体制の充実	各機関や団体等との情報交換、交流、連絡調整等	活動の機会や場の確保	福祉関係情報の収集、提供	地域での福祉学習活動への支援	研修制度などの人材面での支援
全体 N=1,436	43.2	42.8	29.9	29.2	26.5	26.1	21.0	15.0
地区社会福祉協議会 N=74	②50.0	①55.4	24.3	25.7	③31.1	21.6	23.0	17.6
自治会・町内会 N=616	②41.2	①41.7	③33.3	27.1	22.9	31.2	18.5	14.4
民生委員児童委員 N=246	34.6	①52.8	②39.4	③37.0	22.0	31.3	23.2	15.0
ボランティア N=323	①52.6	②44.0	16.7	26.3	③38.1	18.3	25.4	16.7
PTA N=105	①41.9	18.1	②38.1	③32.4	23.8	17.1	18.1	9.5
その他 N=57	38.6	36.8	28.1	35.1	21.1	21.1	21.1	15.8
無回答 N=15	53.3	33.3	-	20.0	20.0	6.7	6.7	26.7
高齢者 N=928	②44.0	①48.1	③31.0	30.4	26.6	27.4	21.7	16.3
障害者 N=266	②43.6	①44.7	27.8	③33.8	31.2	27.1	24.4	18.0
高齢者や障害者を介護している方 N=178	③41.0	①45.5	37.6	②42.7	27.5	24.2	23.0	15.2
子育て中の方 N=315	①42.2	②41.6	③35.9	34.3	25.1	27.6	21.9	16.8
子ども N=604	①45.5	②41.9	③34.3	33.3	27.2	25.8	20.4	14.2
その他 N=194	41.8	38.1	31.4	28.4	22.2	27.3	19.6	13.4
無回答 N=97	32.0	35.1	23.7	17.5	17.5	18.6	22.7	12.4

問 19 その他、地域福祉活動に関する意見などを自由にご記入ください。

○自由意見として、「地域福祉活動のあり方」についての意見が最も多くありました。その他に、「情報交換や広報について」「活動助成や施設利用料金について」等、具体的な内容について意見がありました。

項目	件数	主な意見
地域福祉活動のあり方について	75	<p>○色々な団体（市社協、地区社協、自治会等）に所属しているので参加しなくてはいけません、統一した組織に出来ないでしょうか。会議等出席する機会が多いので代表になり手がありません。</p> <p>○支援を必要としている方と、役に立ちたいと思っているボランティアをつなげるシステムが不十分のように感じている。支援が必要と思われる方に知ってもらう取り組みが必要と思われる。</p> <p>○活動について必ずしも自主的に行っている方ばかりではないということをご理解いただきたいと思います。負担が少なくなると、変わっていくのかもしれませんが。</p> <p>○共働きしていると時間的に大変つらい。仕事の為、子供を親に預かってもらうことが多くなる。土曜日や日曜日まで会議等があるのなら、平日の会議等はなしにして欲しい。</p>
人材の育成、後継の若い世代について	58	<p>○何らかの催しをして参加者を募り、その後ボランティア活動などをし易い雰囲気をもっていかれないものか。もっと若い世代が興味をもって参加できる様な企画があればいい。</p> <p>○高齢化などによる会員減少により、2～3年後には組織を維持できなくなるのではと思っている。世の中には時間的余裕があり困っている人の役に立ちたいと思っている人は潜在的に多いと思われるが、活動への入り口となる情報が十分とは言えない。</p> <p>○休日、夜間に活動時間を広げることで、共働き世帯、現役世代の男性も取り込めるのではないか。社会も変化してきているので、平日昼間に固執しない体制づくりが必要では。</p> <p>○高齢者大学への勧誘、紹介を行い、人材育成と人との連携が図れる場の情報提供を強化する。あかねが丘学園での人材育成を強化すれば一層の活性化が図れる。</p>
情報交換、広報について	33	<p>○自治会活動の中で、住民内の高齢者や障害者等の情報は公的機関からは個人情報ということで教えてもらえない。</p> <p>○もっともっとアピールをして、多くの人に色々な活動が有る事を知ってもらう事が必要と思います。</p> <p>○どういう地域にしていきたいのかという明確なビジョンがよくわからないまま、とにかく活動しているように思う。地域が良くなることを具体的に示して広く認識してもらえると協力してもらえるが増えるのではと思う。</p> <p>○地域包括支援センターや地区社会福祉協議会という組織のあることは知っているが、どのような活動をしているのか知られていない。</p>
活動助成や施設利用料金について	32	<p>○活動する場所等は限られています。活動資金面では、もう少し簡単な手続きで助成がいただける様になればと思います。</p> <p>○建物が古くなり修理代あるいは建て替え検討などが話題になりお金の件が出てきた。行政の予算に組み込んでいただき、ボランティア活動に使用する場合は無料に使用していただけたらと思います。</p> <p>○集会所に対して市の援助がなくなった事は、高齢化が進むこの時代に逆行していると思う。</p>

項目	件数	主な意見
		○高齢者の増加により地域での位置づけは、大きくなっているため参加しやすい環境づくりをしているために、助成の範囲を増やしてほしい。
活動団体間の連携について	24	<p>○地区社会福祉協議会は地域では殆んど知られていない。どんな組織なのか、どんな活動をしているのか、特色を明確にすべきだ。地域にはいろいろな組織があるが、活動しているのは自治会を中心としたほんの一握りの人間だけ。</p> <p>○民生児童委員と自治会連携強化対策がとられようとしていると聞いています。顔が見えない、活動内容が見えないなど、一般市民とは乖離した内容となっていないでしょうか。とにかく必要なところに必要な情報が届いていない現状だと思います。</p> <p>○様々な組織や団体が地域にて活動していますが、それぞれの組織との交流や意見交換が上手く出来ているとは思いません。オープンに参加し意見を述べる様な運営をお願いしたい。</p> <p>○同じような目的を持つ団体（組織）が増えて活動が見えない。既存団体の活動を大切にしながら、内容の充実をはかることが必要ではないか。新しい団体の立ち上げより、継続させることが難しいはず。</p>
地域住民の関わり、意識について	23	<p>○自助、共助の必要性をもっと語るべきでは。依然として「そんなことは行政に任せとけば」という考えの人がまだまだ多い。福祉の充実は税の膨張に繋がる事をもっともっと知らせるべき。</p> <p>○高齢者の一人暮らしが非常に多くなってきました。近くに親族が居る一人暮らしはまだいいのですが遠くの親族、それもお年をとられて日頃、交流の少ない人、注意してあげていても限界がある。</p> <p>○子ども会やPTA活動への関りを避ける人が多い。もう少し住んでいる地域に協力したり、盛り上げに協力しようという姿勢が欲しい。</p> <p>○自分自身がまず健康である事、無理をしない、そして地域の人達が自分の回りにどんな方が生活しているのかをまず知るとい事が一番大切だと思います。</p>
明石市の施策について	52	<p>○地域の縦割りの是正によって地域一括交付金などを活用し、これからも住み続けられるまちづくりを、本当の意味の協働で推進して欲しい。</p> <p>○市の福祉計画に基づき、その実働部隊としての市社協は各種支援策を実施しているが、その実効性について今一度議論する必要があるのではないだろうか。社協内に十分な人材が確保されているのか？単なるバラまきになっていないか？これから急速に増加する高齢者に対し、地道に息の長い取組みを考えて下さい。</p> <p>○企業と企業に勤める人々に対しても退職後の有意義な地域社会の関わり方について、企業にも啓蒙的なPRを今後ゆっくりと行う事の支援が必要ではないでしょうか。</p> <p>○市、社協等は相談に来た人に対応して終わり、とするのではなく、自ら「相談に来たい人」を発掘すべき、条例を作って終わり、なのではない。条例を作った後に本当の活動が始まる。</p>
市社会福祉協議会について	19	<p>○ボランティア依頼に対しての活動結果の評価がほしい。他にどういう事を期待されるかといった今後の活動のヒントとなるアンケート結果があれば尚良い。</p> <p>○市社会福祉協議会はどんな活動をしているか知りませんでした。一部の人が利用できる機関だと感じていました。地域のどうすればいいか等の方向性を把握し、活動に反映するには難しいです。</p> <p>○サロンでの活動では内容を充実したものにと考える中、知恵を持ち寄り計画しています。社協の方々からのアドバイスがあればと思います。</p> <p>○地域活動の拠点として地区社協の支援体制の充実に関力を入れてほしい（人材、事務所、活動資金等）。</p>